

平成24年第1回定例会に提出された議案の内容と審議結果

条例の制定・改正

○境町親子ふれあい館の設置及び管理に関する条例の制定

〔原案可決〕

次世代育成、少子化対策の推進事業として、子ども達が健やかに生まれ育つ環境づくりを推進し、福祉の向上に資するため、条例を制定するもの。

○境町職員の給与に関する条例の一部を改正する条例案

〔原案可決〕

人事院勧告に基づいて、条例の一部を改正するもの。

○境町税条例の一部を改正する条例案

〔原案可決〕

「東日本大震災からの復興に関し地方公共団体が実施する防災のための施策に必要な財源の確保に係る地方税の臨時特例に関する法律」の制定地方税法の一部改正があったため境町税条例の一部を改正するもの。

○境町介護保険条例の一部を改正する条例案

〔原案可決〕

高齢化の進行に伴い、介護保険サービス利用者が増加し、保険給付費の増大が見込まれるため保険料を見直すため条例の一部を改正するもの。

補正予算

○平成23年度境町一般会計補正予算(第5号)

〔原案可決〕

歳入歳出予算の総額から、歳入歳出それぞれ4千89万6千円を減額

し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ88億4千886万1千円とするもの。

○平成23年度境町国民健康保険事業特別会計補正予算(第3号)

〔原案可決〕

歳入歳出予算の総額から、歳入歳出それぞれ2千73万4千円を減額し歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ31億8千316万1千円とするもの。

○平成23年度境町介護保険事業特別会計補正予算(第3号)

〔原案可決〕

歳入歳出予算の総額から、歳入歳出それぞれ3千404万円を減額し歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ13億4千921万5千円とするもの。

町道路線の認定について

○境町大字長井戸字殿山地内において、開発行為による道路新設に伴い採納を受けたことによるもの。

〔原案可決〕

町道1794号線

・起点・終点 長井戸字殿山1611番4地先、同所1611番9地先
・延長 107m

人事案件

○境町固定資産評価審査委員会の委員の選任につき同意を求めることについて

〔即日原案同意〕

・住所 境町大字長井戸1011番地
・氏名 平川 栄
・生年月日 昭和26年9月18日生

○境町教育委員会の委員の任命につき同意を求めることについて

〔即日原案同意〕

・住所 境町大字上小橋568番地32
・氏名 青谷 洋治
・生年月日 昭和26年6月4日生

一般質問

議席11番 木村 信一 議員



○今後のまちづくりについて

Q.日野自動車進出による関連企業の誘致及び従業員の移転に対して、各種優遇策を町はどのように考えているか。

A.関連企業の誘致については、県立地推進室によると、結城市の第一工業団地に進出する一件のみで、その他の関連企業についての情報は今のところない。町としては今後、県や関係機関の指導を仰ぎながら、何らかの優遇措置等も視野に入れ、早急に検討したい。従業員の移転については、日野関連の岡本物流株式会社为主力となり、昨年10月には、移転に伴う従業員の住環境確保のため協力願いたいとの話が来ており、町としても、現在実施している「定住化促進事業」などを踏まえ、新たな優遇措置も検討していく考えである。

〔まちおこし推進室長〕

○冠水対策について

Q.数カ所ある冠水場所に対して渇水時期にやれる対策があると思うが町の考えを伺いたい。

A.冠水箇所の把握については、町道17箇所の発生を確認している。市街

地の旧都市下水路については今年度も境大橋から上流約100mの区間をしゅんせつする。染谷川関連については、水路のゴミの除去や除草作業土砂のしゅんせつ等を行う予定。

〔産業建設部長〕

○環境問題について

Q.不法投棄の防止策を検討していたきたい。

A.4地区にある「環境を守る会」をはじめとして、町・県・警察署との連携をとり、監視活動を強化していきたい。伏木大照院北側等には、防犯カメラの設置も考えている。

〔総務部長〕

議席9番 内海 和子 議員



○町づくりについて

Q.境町の玄関口のキンカ堂が撤退して2年が過ぎた。今後の見通しはどうなっているのか。

A.基本的には民間の商行為であり、町は関与できないと思われる。遊技場を計画したいという会社があり、すでに県の関係書類の許可は下りている。

〔副町長〕

Q.農商工の連携による商品開発の進捗状況はどうなっているのか。

A.トマト、ショウガ、セロリを使用した「境ブランド」として商品化が見込める10種類のサンプルが完成したので、商品化につなげていく。

〔副町長〕

A.温活というネーミングで専門家の意見を取り上げる中で商品開発していききたい。

〔まちおこし推進室長〕

Q.結婚支援の活動の町づくりを検討してはいかがか。

A.当町ではNPO法人のベルサポートが活動しているので協力体制作りを整えていきたい。

〔副町長〕

Q.空き店舗や空き地等を利用しての交流の場的な町づくりもよいと考えるがいかがか。

A.地域サロンの創出は少子高齢社会において、商店街の活性化にもなるので、現在策定中の第5次境町総合計画において、地域福祉における地域コミュニティ再生という観点から検討していく。

〔副町長〕

○放射線測定について

Q.福島県原発事故による放射線とこれから長く付き合っていくなくてはならない。住民の安心感を得るためには町独自で放射線測定器を購入して住民のニーズに応えるべきではないか。

A.個人からの測定要望が少ないことを踏まえると、現在、茨城県から貸与されている測定器で対応可能と考ええる。

〔総務部長〕

議席3番 渡邊 昇 議員



○町に配分する復興対策交付金について

Q.放射性物質の検査機器食材用を町で購入の考えはないのか。

A.交付金は、基金に積立て、平成25年度の義務教育施設及び道路整備にあてる。次に現在導入の検査機器で新基準の改正についても十分に対応